

## 第86回 相模湖地区まちづくり会議 全体会 結果

- 日 時 令和5年8月24日（木）・19時開会
- 場 所 相模湖総合事務所 3階 大会議室
- 出席委員数 17名出席（4名欠席）
- 傍 聴 者 0名

### 1 開会

### 2 代表あいさつ（河津代表）

○河津代表からあいさつの後、代表の司会により進行した。

### 3 協議事項

#### 令和5年度まちづくりを考える懇談会のテーマについて

事務局から標記の件について添付資料に沿って説明があった。

懇談する内容については、役員会の通り「中山間地域の交通手段」をテーマにする方向でまとまった。

意見等（○意見・質問、⇒回答）

○乗り合いタクシーの内郷地域の意見について市は会議等では吸い上げているのか。

⇒市で行っている相模原市地域交通活性化協議会にてそうした話が出ているとは聞いていない。

今出ている課題意見については解決が難しいものもある。乗り合いタクシーの利用者数減少の要因は病院に入院されていた方が外出の足として年間2000人ほどいたが、コロナ禍の感染防止の為に乗らなくなってしまったことがある。今後、病院としても乗りタクに乗る人数を段階的に増やしていく予定と伺っているが、しばらくは戻らないと思われる。

周辺自治会に乗りタクに乗車してもらうようお願いしたり、交通政策課にも乗り合いタクシー運営継続基準の緩和のお願いをしているがいい回答を得られていない。

○詳細なテーマ土地家屋関連について、移住定住という観点で農用地の運用を改め、活用していく方法について別の機会に考える必要があるのではないか

⇒役員会では、まちづくり会議の名前で市に対してどのように意見していくか検討してすることとした。

○市の交通機関について、交通所管課は路線バス事業者の意向ばかり考えている節があり、乗りタクの延伸等の運用の変更を行う様子がない。

⇒乗りタクの運行条件は運輸局への申請や警察との調整があり、市民の要望を直接かなえることが難しい側面がある。

市としての意思決定も相模原市地域交通活性化協議会で決める内容もあり、地元の人が参加していない会議でケースも多く、地域の実情を把握しきれていないことがある。

○菅前総理がライドシェアに言及していることもあり、地域交通の担い手に将来的になりうると思う。

⇒補足として交通政策としては三ヶ木～相模湖の路線バスは赤字になる路線であり、できる限り本数を減らしていくという考えになる。市としてはその補完として乗合タクシーという施策を講じている。

○住民の目線から物を考えるというのは大事だ。もう少し積極的な発言や提案をしないと地域からどんどん人がいなくなってしまう。テレビなどで過疎地の取り組みを見ることが多いが、お役所に頼らない民間の知恵や力を集めて物を進めて、そこに公共の力、金を集めるように進めている。抽象的ではあるがその部分が相模湖には足りていないのではないか。

#### 4 各部会等からの報告

○各専門部会長から各専門部会の取組状況について説明があった。

- ・産業・観光専門部会の中里部会長からダムカレースタンプラリーの進捗についての報告があった。

- ・子ども・若もの専門部会の河津部会長から前回まちづくり会議から特段動きはなかったと報告があった。

- ・地域ケア会議の遠藤委員から会議の内容について別紙の通り説明があった。

#### 5 その他

- ・事務局より小原地域の取り組み状況について別紙のとおり報告があった。

- ・森久保副代表より相模湖芸術文化のまちづくりの活動について 8/25 に県知事に面会することを報告した。

#### 6 閉会

○森久保副代表による閉会

以 上

## 第86回 相模湖地区まちづくり会議 全体会 次第

日 時 : 令和5年8月24日(木)・19時～  
場 所 : 相模湖総合事務所3階 大会議室

1. 開 会
2. 代表あいさつ
3. 協議事項等  
令和5年度まちづくりを考える懇談会のテーマについて
4. 各部会等からの報告
5. その他
6. 閉 会

## 相模湖地区まちづくり会議役員会 結果報告

日時 8月17日(木) 19:00~

### ○結果

#### 令和5年度まちづくりを考える懇談会のテーマについて

\*事務局から、標記の件について添付資料に沿って説明があった。

懇談する内容は、「中山間地域の交通手段」をテーマにする方向でまとまった。

今回話した内容をまとめて全体会に提出し協議することとなった。

意見等(○意見・質問、⇒回答)

(1) 大枠のテーマについて

○大枠のテーマが「中山間地域の人口減少に伴う～」となっており、人口減少に歯止めをかけるとしているが、人口減少は食い止められないので、人口が減少してもコミュニティを成立する方向で考えたほうが良いのではないか。

(2) 詳細なテーマについて

〔土地・家屋関連〕

○内郷は青地(農業振興地域内農用地区域内農地)がほとんどであり、農地以外の利用が難しくなっている。

土地の利活用をより活発にするためには、青地をまとめて白地(農業振興地域内農用地区域外農地)にすることができるような手続きについて話すことはできないか。

⇒この問題については実際に相模湖の移住定住が進まない理由だと思われるが、農振除外の手続きについては、県の所管の事務であり、市の懇談会で話しても返事をもらうことは難しいだろう。

○藤野も人口は減っているとはいえど歯止めをかけている。交通の便で言えば藤野は相模湖以上に悪い。その手法をまねるべきではないか。

⇒藤野への移住者の一因としてシュタイナー学園の存在は大きい。藤野の空き家の利活用についても権利関係が複雑なものを避けて、オーソドックスな物件を取り扱っている。現在照会できるような空き家はなく上野原を紹介しているようである。

○藤野で活発に動いている空き家の利活用を相模湖でもやりたいという考えはあるが、相模湖の住民は家屋、土地を売り渋る、貸し渋るように感じる。相模湖への移住という需要はあるように感じているが、相模湖に伝手がある人でさえ、物件をなかなか見つけることができなかつた。相模湖に不動産業者は3~4件あるがそのような事情もあって地元相模湖の物件をほとんど取り扱っていない。この状況で移住定住というのは難しいように感じる。

○シュタイナー学園の需要を相模湖に引っ張ってくることはできないか。

⇒地理的には上野原の方が近いので、相模湖に引っ張ってくるのは厳しいと思われる。

〔交通関連〕

○日々の生活の中で不便なことで例えば交通の便などがある。大垂水にトンネルを掘れば便利になる。

⇒国が昔計画をあきらめているから難しいだろう。

○神奈中があるから市の様々な乗りタクなどの交通支援が制約を受けている。神奈中にバスの運営を任せるのではなく市が直営で地域交通を担うことで地域の声を反映した交通網の構築ができるのではないか。

⇒できる、できないは別として議論の俎上に挙げてみたい。小型のバスをつかって地域を循環するバスを検討したい。

⇒将来のビジョンを懇談会にて語ることは可能だがビジョンのみを語るのはやめた方がいい。ある程度は今の取り組みについて語る必要はある。

●「中山間地域の交通手段」というテーマで買い物支援、通学、医療支援など交通手段を検討することは重要である。これを詳細なテーマとして全体会に諮ることを承認された。

まちづくりを考える懇談会のテーマについて

大枠のテーマについて

**「中山間地域の人口減少に対応した住みよい環境づくりについて」**

相模原市では令和 5 年 6 月 2 日に令和 2 年国勢調査を元に 2070 年までの将来人口の推計を発表した。

その中で相模湖は 2020 年の人口 7695 人から 2070 年に 1683 人まで減少するという推計が発表された。

また 2025 年の推計人口 7110 人で、2023 年 4 月の人口が 7,200 人程度という数字が出ており、推計以上に厳しい状況となっている。

この人口減少に歯止めをかけることは難しく、人口が減っても地域として存続することができるようなまちづくりを行っていくべきである。

その中でより具体的な話をするために枠を絞ったテーマを設定する。

詳細なテーマについて

**「相模湖地区の交通支援の在り方について」**

⇒相模湖地区では吉野・与瀬地区、内郷地区で乗り合いタクシーを運行しており、移動の足が無い方が安心して移動できる取り組みについて乗り合いタクシー運航協議会において検討している。

近年は、コロナ禍以後利用者が減少し、令和 4 年度においても利用者が戻らず、内郷地区では運航継続の利用者を下回り減便や廃止が検討される状態が続いている。

また、地域唯一のタクシー会社も令和 4 年 1 2 月に廃業し、津久井地区のタクシー会社に対応いただいているが、人手不足の影響により利用者にとって満足度の高い運用となっていない状態が続いていると考える。

さらに、帝京大学の移転以来、路線バスの本数も減便となっており、利便性が大幅に低下した状態となっている。

このような状況を解決するため、乗合タクシー利用者の更なる促進策や交通手段のあり方について懇談を行う必要があると考える。

⇒担当課については交通政策課等

乗りタク運営協議会等であがっている乗り合いタクシーの課題等について

- ・予約なしで利用できるような運行方法にしてもらうことはできないか。
- ・循環バスのような運行方式にすることはできないか。
- ・相模湖駅まで延伸することはできないか。
- ・日赤まで延伸することはできないか。
- ・無料チケットなどを発行し利用体験をするのはどうか。
- ・最終便が 15 時と速いため、診療所に行くことができても帰れない時がある。
- ・現在乗り合いタクシーは少人数のヘビーユーザーに支えられており、新規利用者の獲得が不可欠の状態となっている。
- ・回数券を発行して小銭を集めることの不便さを解消することはできないか。
- ・乗り合いタクシーを買い物支援の一環として「買い物ツアー」に利用することはできないか。
- ・乗り合いタクシーを小中学校の登下校に利用することはできないか。

## 令和4年度まちづくり懇談会

- 1 地域の実情に見合った子育て支援等について
  - ・放課後の子供の居場所づくりについて
  - ・過少規模校のあり方について
- 2 相模湖の観光資源について
  - ・令和元年東日本台風以後の復旧がひと段落したことへのPR
  - ・市民の森計画について
  - ・ダムを通じた他地区との連携

## 相模湖地区に関連した取り組み

### 観光振興

- ・ダムカレーの取り組み
- ・小原の郷を軸とした地域振興
- ・相模ダムリニューアルに伴う観光振興

### 学校・教育

- ・小中学校の望ましい学習環境のあり方意見交換会の立ち上げ

### 持続的な医療対策

- ・中山間地域の医療方針に係る基本方針の検討

### 高齢者支援等

- ・買物支援⇒地域ケア会議
- ・乗合タクシー⇒運営協議会、交通政策課

※上記の内容については、昨年度取り扱ったものや、現在市や外部の団体の議論されているものであるため取り上げづらい。

## 令和5年度まちづくり懇談会のテーマについて

### テーマの大枠

「中山間地域の人口減少に対応した住みよい環境づくりについて」

### 説明

先日提示した、2070年までの人口推計資料より設定

### テーマの詳細

「相模湖地区の交通支援の在り方について」

### 説明

相模湖地区では地元の足の利便性が大幅に低下した状態となっている。  
このような状況を解決するため、乗合タクシー利用者の更なる促進策や交通手段のあり方について懇談を行いたい。

## 相模湖地区地域ケア会議 令和5年度第1回地域づくり部会 報告書

- 日 時 令和5年6月23日(金) 午後1時30分～午後4時00分
- 場 所 相模湖総合事務所3階A会議室
- 出席者 別紙名簿参照(委員出席名・事務局名)

### 1. 開会 石井副部会長

### 2. 新委員等紹介 委員・事務局自己紹介

長谷川委員の相模湖地区自治会連合会からの退任を受けて、今回より、同地区自治会連合会長の森久保委員に交代となった。

### 3. 部会長、副部会長互選

新部会長に石井副部会長を推す声があり、部会長に選出された。石井副部会長の後任に大神田委員が就任した。

### 4. 議題

#### (1) 第8期高齢者保健福祉計画振返りと第9期の取組みについて

・地域包括ケア推進課より、別紙「相模湖地区：第9期相模原市高齢者保健福祉計画期間における地域での取組の方向性について説明があった。

上記計画と取組に対して当部会からの意見を出していただき、本年7月の地域包括支援センター運営協議会に挙げるとのこと。

#### 【意見】(○委員 ●事務局)

○「担い手の確保と周知が必要」との表現であるが、担い手を養成する等の具体的な文言があると良いのではないかと。

●担い手講座を企画することはハードルが高いため、あいさつや声掛けを行うことを実践してみてもどうか。

○居場所づくりについてはコロナの影響を受けたが、現状を把握しながら進めた。

○運転免許証を返納すると交通に関して不便に感じてしまう。

○千木良地区にて百歳体操立ち上げの支援を予定しているが、集会所に安定性のある椅子がない。

●市で拠点型の百歳体操を展開している。けんこう号を活用して参加することが可能。

○地域情報誌の内容が充実しており、必要な資源を活用しやすくなっている。



○百歳体操を行うための備品（丈夫な椅子）が不足しているので、いただきたい。

○（老人クラブアンケート資料より）これからの高齢者の支援をどうしたらよいか。肩肘の張らない気軽な声掛け、挨拶、LINEの使い方を教わり、安否確認に役立てられたらよい。

○ちょこボラには50人程度のボランティア登録者がいるが、地区に偏りがあり、遠方の利用者宅まで支援に移動している。

○ちょこボラの活動が広まらないため、周知が必要である。

○講座を企画しても集客が少ない。

○支えたつもりでも、相手は余計なことをしてくれたと受け止める人もあるので、ゆるやかな支え合いでよいのではないか。

○自宅から出ない人が増えており、会話を欲している。

○小地域で場の集まりを何か所か作れるとよい。

## （2）地域で取組む買い物等支援について

### 1. けんこう号について（相模湖福祉相談センターから説明あり）

- ・平成13年当時、相模湖町で1台所有し開始し、市に合併した後津久井地域に広げた。
- ・運行エリアの境界から概ね3km圏内（緑区大島、緑区橋本、上野原市）の運行が可能。
- ・65歳以上の介護予防を目的とした団体が登録の対象。
- ・登録は相模湖福祉相談センターで可能。
- ・利用から4か月前の初日開庁日の9時～受付開始、抽選あり。利用日1か月前までに申込書と工程表を提出。
- ・7月1日に市のホームページと地域情報誌に掲載する。
- ・国の介護予防交付金を活用し、市が車両をリースし運行業者に委託する。
- ・運転席と補助席を除いて1台につき8人の乗車可。
- ・介護予防事業と元気倶楽部が対象であったが、サロン等介護予防を目的とする団体も対象となる。
- ・内郷乗り合いタクシーと競合するので買い物利用については取り下げてほしい。→双方の事業の目的・内容が異なるとの説明あり。
- ・既存の団体には案内書を送付し、利用する場合は団体登録をしてもらう。

2. 乗り合いタクシーおしどり号の状況について（相模湖まちづくりセンターから説明あり）

・令和4年4月～令和5年5月までおおよそ43%～56%の利用状況で推移している。

3. 今後の取組みについて

・おしどり号を利用した買い物ツアーについて

○この企画が必要と考えたのは、免許返納した人が自家用車等を運転できなくなっても、既存の交通機関が使えるようになること、乗り合いタクシーを知らない人が同タクシーを使うことができる、駅から電車に乗ったことのない人が使うことができるようにしたらよいのではということがきっかけと思う。

○老クラブで買い物ツアーをしてみましよう。大神田委員から老人クラブ会員に募る。対象地区は増原地区と関口地区。

自治会から買い物の付き添い者を募るため、森久保委員より自治会長に情報提供していただく。

○タクシー降車後の荷物までは他の人が持てないので、買い物の量を考えて行う。付添人は持つことをしない。

○乗り合いタクシーの運転士のサービス精神が向上するとリピートする客が増えると思う。

○乗り合いタクシーの規定にて停留所で乗降することになっているため、自宅までの送迎サービスはできない。

●実際に取組みながら振り返りを行い、改良していくことがよいのではないかな。

(3) 認知症普及啓発パンフレットの活用について

別紙参照

○認知症サポーター養成講座は老人クラブからの要望があれば出向いていただけか？

●相談して頂ければ日程を調整して実施いたします。

(4) 令和5年度部会スケジュールについて

別紙をもとに協議した結果、調整が難航することから後日調整となった。

5. 報告事項

・ちょこボラ相模湖実績報告

別紙参照

地域づくり部会にて平成29年度に実施したアンケート結果からちよこボラの発足につながった。

令和4年6月～毎週水曜日の10時に事務局活動を開始。エプロンを作って活動を周知した。タウンニュースにちよこボラについての記事掲載をした。

- ・地域づくり部会だより第2号について

別紙参照

- ・令和5年度地域情報誌（お達者ちょう）について

令和5年6月末完成予定

- ・老人クラブ連合会 2月研修会報告

横浜にてリモートで全国放送を行った。178件のアクセスがあった。

相模湖の4つのクラブで行っている友愛チーム活動（非会員も対象）を報告した。お年寄りが主体的に住みやすい地域を作るのが老人クラブです。地域の人に見守ってもらいたい。ゆるやかな見守りとして、形式的な挨拶にもう一言を付け加えることが広まれば、お互いの心が通じ合うとのこと。



## — 令和5年、小原宿拠点活用検討分科会が発足 — 現在進めている取り組みについてご紹介します！

平成19年に小原の魅力づくりを進める市民活動団体「小原宿活性化推進会議」が発足して以来、相模原市は地域住民の皆様とともに小原地域のまちづくりを進めてまいりました。さらに今年、推進会議の中でも特に小原地域の拠点活用を検討する「**小原宿拠点活用検討分科会**」（以下、**分科会**）が発足され、小原宿周辺の活性化をさらに進めていく体制が構築されました。

相模原市は小原地域を**中山間地域振興モデル地区**に定めて分科会の活動を支援しており、モデル地区に関わる取り組みの一環として、分科会とともにこの「まちづくり通信」を配信することとしました。今後とも定期的にこの通信を発行し、小原の活性化の取り組みについてご紹介していきます。

### これまでの「小原宿拠点活用検討分科会」の取り組み

小原宿活用検討分科会では、小原集会所にてこれまで7回の会議を開きました。有志の方々と相模原市が一丸となり、小原宿の魅力を高めるための利活用方策や空間づくりについて議論しています！

【**分科会のメンバー構成**】 推進会議会長、自治会長、甲州街道小原宿本陣祭実行委員長のほか有志の方々

#### 【これまでの主な開催状況】

第4回	4月15日（土）	分科会の体制の決定 等
第5回	5月20日（土）	当面の方針の決定、マルシェ開催の決定 等
第6回	6月17日（土）	小原の郷の利活用・運営のアイデア出し 等
第7回	7月22日（土）	マルシェに向けた準備、コンセプトの決定 等



#### ★当面の分科会の方針

これまでの議論の結果、当面の間、分科会では以下の2点に取り組むことになりました！

- ①分科会の取り組みの第一歩として、小原の郷の屋外空間を利用した**マルシェを開催する**
- ②**まずは小原の郷の利活用方策から検討を進め**、小原宿本陣・古民家やその周辺地域への段階的な波及を目指す

#### ★マルシェ開催の主な狙い

- ・誰もが参加しやすいイベントにしたい！
- ・定期開催し、小原宿のファンを増やしたい！
- ・生産者同士のつながりをつくりたい！

小原の里の夏まつりにあわせて  
**8月26日に第1回おばらまるしえ**  
を開催します！



詳細は裏面をご覧ください！

### 今後の「小原宿拠点活用検討分科会」の取り組み予定

今後はイベント企画だけでなく、小原の郷の新しい使い方や、小原宿本陣や周辺古民家との連携の仕組みについて検討していく予定です。なお、**次回の分科会は9月中旬**を予定しています。

分科会では、小原地域の未来について一緒に考え、行動できるメンバーを募集しています！  
ご関心のある方は、下記の問い合わせ先までご連絡ください！

お問い合わせ先

相模原市緑区 相模湖まちづくりセンター 総務・地域振興班  
TEL：042-684-3240 MAIL：sagamiko-cen@city.sagamihara.kanagawa.jp  
小原宿拠点活用検討分科会会長 永井充 TEL：090-3319-0932

# おばらまるしえ開催

小原の里の夏まつりにあわせて、初めてのマルシェを開催します！



令和5年 **8/26** (土)  
10:00～15:00  
「小原の郷」にて



小原をはじめ、他地域からも多くの出店があり、食事・スイーツや雑貨、各地域の特産品、ものづくり体験など様々なお店を楽しむことができます。ぜひお出かけください！

おばらまるしえでは、生産者の方々から直接モノやコトを買い、参加者同士が交流できる場をつくることで、お互いのことや地域のことを深く理解し、より一層温かいまちをつくることを目指しています。

## 【出店予定一覧（8/14現在）】

	商品	企業・団体名
キッチンカー	ナポリタン	ケンズキッチン
キッチンカー	自然食品ごはん	アビオファーム
キッチンカー	コーヒー	Orange Blue
キッチンカー	お香、抹茶飲料、干菓子	個人
テント体験	木材クラフト体験	サンワックス
テント体験	地産ガチャ など	森のイノベーションラボFUJINO
テント販売	モロッコ料理	まなはれ
テント販売	駄菓子のつかみ取り、スーパーボールすくい	小原宿活性化推進会議
テント販売	フルーツジュース、カクテル	barマレイ
テント販売	ビーズアクセサリー	個人
テント販売	ソーセージ、地ビール、ノンアル地ビール、ジュース	グーディ
テント販売	中古おもちゃ、ゲーム用カード、ぬいぐるみ、ハンドメイド	個人
テント販売	乾物、雑貨	個人
テント販売	シューケットラスク、焼きタルト、キッシュ、チーズケーキ	ル・ジャルダン・ゴロワ
テント販売	コーヒー豆・パック、水出しコーヒー	FULLSHOT COFFEE BEANS
テント販売	食器、雑貨、子供服、多肉植物	個人
テント販売	古着、雑貨、おもちゃ、古本	個人
テント販売	ハンドメイド作品	個人
テント販売	ベーグル	藤野ベーグル
テント販売	手作りアクセサリー	個人
テント販売	おもちゃ、お菓子、くじ引き	個人
資料館軒下	酒まんじゅう	壽堂

次回の  
「おばらまるしえ」は  
**11/25 (土)**  
開催予定です。  
お楽しみに！



おばらまるしえのお問い合わせ先はコチラ 小原宿活性化推進会議 里のまつり担当 080-6056-6300